

古いけれども古びない。歴史があるから新しい。

旅路2

—日本への旅路—

遥かな

漢籍の

第18回京都大学人文科学研究所
TOKYO 漢籍 SEMINAR

海を越えた韓書と漢籍

京都大学人文科学研究所 教授

矢木 毅

行きて帰りし書物

—漢籍の往還をめぐって—

京都大学人文科学研究所 准教授

永田 知之

海西と海東の『王勃集』

京都大学大学院人間・環境学研究科 教授

道坂 昭廣



2023年3月6日[月] 10:30-16:00 聴講無料・要申込み

会場 / 学術総合センター内 一橋大学一橋講堂中会議場
(千代田区一ツ橋 2-1-2)

聴講ご希望の方は、右記URLのフォームから氏名・連絡先(住所・電話番号・E-mailアドレス)をご記入の上、お申し込みください。【2月24日(金)17:00 締切】。

受講票(ハガキ)をお送りいたします。(2月下旬から順次発送)

会場ではなくオンラインによる開催になる場合があります

京都大学人文科学研究所
附属東アジア人文情報学研究センター
〒606-8265 京都市左京区北白川東小倉町 47

E-mail kanseki-tokyo@zinbun.kyoto-u.ac.jp

URL http://www.kita.zinbun.kyoto-u.ac.jp/2023_kanseki_tokyo

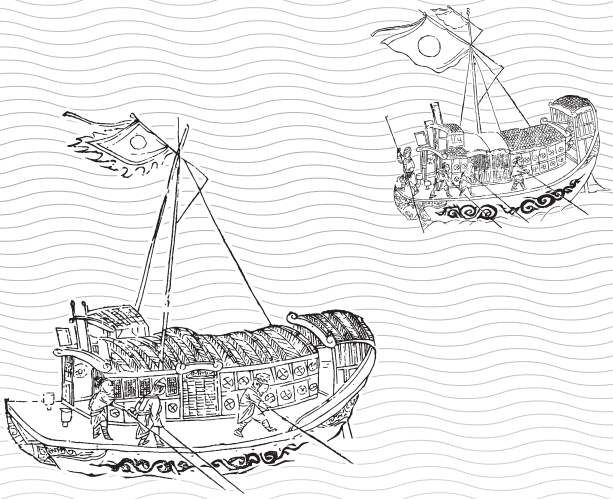


セミナーお申し込み
フォーム

○詳しくは裏面をご覧ください。

漢籍の 遙かな 旅路2

—日本への旅路—



《今回の概要》

テキストの「情報」が瞬時に世界を駆け巡る時代。古くから東アジアの文化に影響を及ぼしてきた中国古典籍（漢籍）のテキストも、いまでは全文画像や電子テキストとして容易に閲覧することができるようになっています。テキストの校訂にやや難を残しているとはいえ、コンピュータによる検索の便宜は圧倒的で、私たちの研究のスタイルすら大きく変わりつつある現実是否むことができます。それでも、「モノ」としての手ごたえを失ったテキストに、なにかしら物足りない思いを抱いている方も少なくはないのではないでしょうか。

『日本国見在書目録』から『経籍訪古志』にいたるまで、我が国に伝来した漢籍に関する研究には膨大な蓄積があり、それは今も営々と引き継がれています。宋元版や五山版など、天下の孤本とされるような有名な典籍についてはいうまでもありませんが、ごく一般的な普通本についても、漢籍の伝来にはそれぞれに秘められた物語が隠されていることでしょう。

今回は特に日本に伝来した漢籍をテーマとして、それぞれの漢籍の「モノ」としての語りに耳を傾けてみたいとおもいます。

●参加定員／80名(申し込み順)

*定員を超えた場合はお知らせします。

●申し込み期限／2月24日(金) 17:00 締切

*申し込みの詳細は表面をご覧ください。

●プログラム

司会 古勝隆一（人文科学研究所教授）

10:30～10:45 ◎開会挨拶 東アジア人文情報学研究センター長 池田 巧

10:45～11:45 ◎講 演 海を越えた韓書と漢籍
京都大学人文科学研究所 教授 矢木 毅

11:45～13:00 ◎休 憩

13:00～14:00 ◎講 演 行きて帰りし書物——漢籍の往還をめぐって——
京都大学人文科学研究所 准教授 永田知之

14:00～14:20 ◎休 憩

14:20～15:20 ◎講 演 海西と海東の『王勃集』
京都大学大学院人間・環境学研究科 教授 道坂昭廣

15:20～15:35 ◎休 憩

15:35～15:55 ◎質問への回答

15:55～16:00 ◎閉会挨拶

●会場／学術総合センター内(千代田区一ツ橋2-1-2)

一橋大学一橋講堂中会議場



■会場への交通機関

- ・東京メトロ半蔵門線 都営地下鉄三田線・新宿線 「神保町駅」A8出口より徒歩5分
- ・東京メトロ東西線「竹橋駅」1b出口より徒歩5分

--- 都営新宿線
..... 都営三田線
..... 東京メトロ半蔵門線
—— 東京メトロ東西線
—— 高速道路